

8. 河道特性

九頭竜川は流域の約 80%が山地であり、山間溪谷部を比較的急勾配で下り、大野盆地で真名川を合流した後、河岸段丘の挟まれた平地を蛇行を繰り返しながら瀬や淵を形成している。その後、永平寺町鳴鹿地点で福井平野に入り、河床勾配を緩めながら西流し、福井市において日野川を合流した後、川幅を広めて北流し、三国町において日本海に注いでいる。

河床勾配は、真名川合流点から鳴鹿地点までは概ね 1/100～1/300、鳴鹿地点から日野川合流点までは概ね 1/300～1/1,000、日野川合流点下流では 1/6,700～1/5,100 である。

河床の粒径は、真名川合流点から鳴鹿地点までは人頭大の転石が多くみられ、鳴鹿地点から真名川合流地点の間で 100mmから 1mm程度に変化する。日野川合流点より下流では 0.5mm程度である。

一方、日野川は標高 1,100mの夜叉ヶ池やしゃがいけを源流とし、武生盆地に入り吉野瀬川、和田川、天王川、浅水川等、樹枝状の支川を多く集め、福井市において足羽川を合流した後、北流して九頭竜川に合流する。

河床勾配は、松ヶ鼻堰堤まつがはなより上流では概ね 1/100～1/200、そこから天王川・浅水川合流点までは 1/250～1/850、さらに足羽川合流点までは概ね 1/850～1/6,000 と急激に緩くなり、そのまま九頭竜川に合流している。

九頭竜川と日野川が合流する地点上流の河床勾配を比較すると、九頭竜川が 1/1,100 に対して日野川は 1/6,000 と九頭竜川に比べて緩勾配であるのが特徴である。

足羽川は流域の約 85%が山地流域であり、その源を冠山かんむりやまに発し山間部を北流しながら魚見川、水海川、部子川、上味見川等へこ かみあじみの支川を集め、福井市美山町で羽生川はにゅうを合流した後、流れを北西に転じ芦見川、一乗谷川、荒川等あしみ いちじょうだに あらを合流し、福井市水越町地先で日野川に合流する。

河床勾配は、荒川合流点より上流では 1/100～1/1,000、そこから日野川合流点までは 1/1,100～1/3,300 と緩くなり、そのまま日野川に合流している。

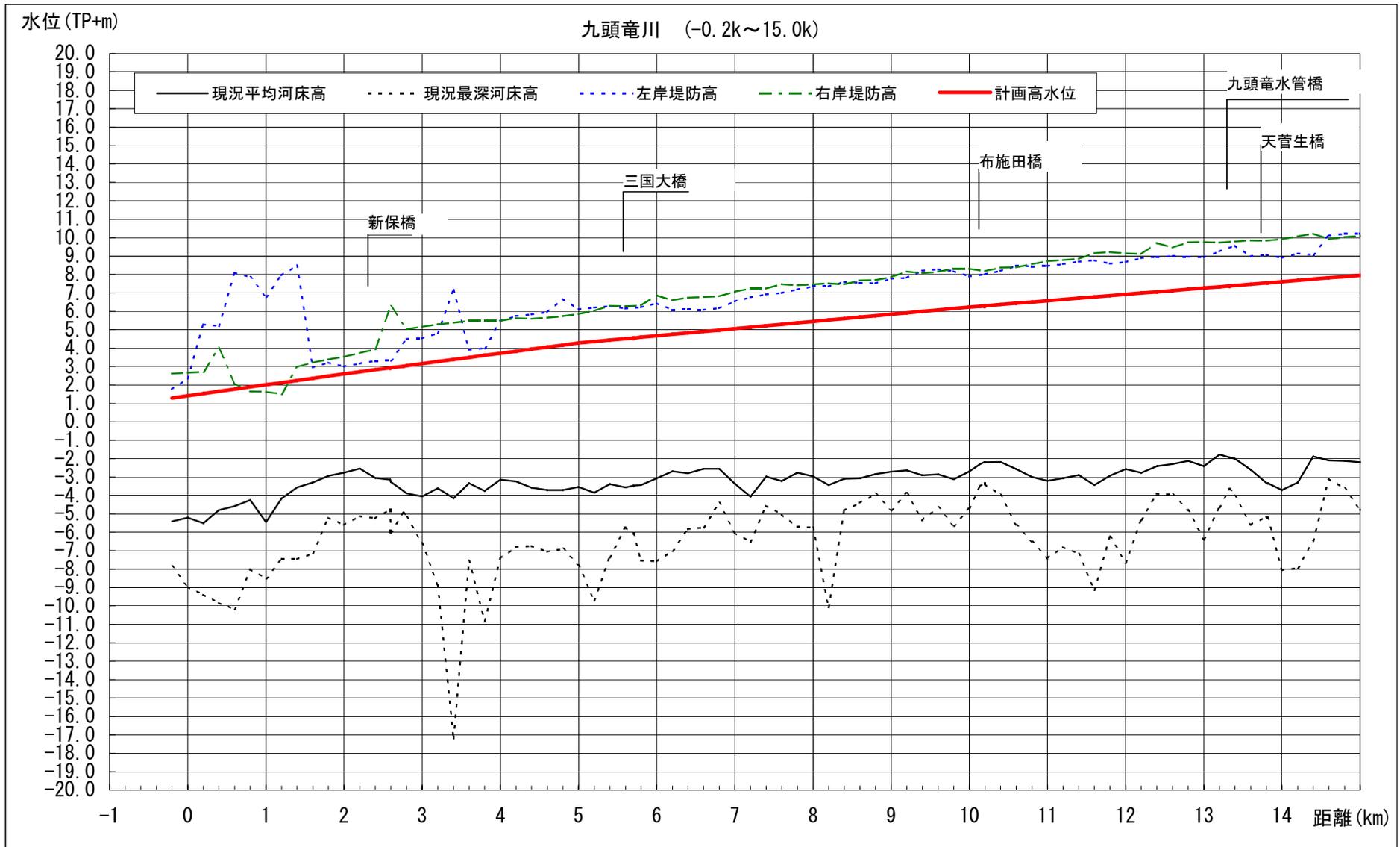


図 8-1 九頭竜川の縦断形 (-0.2k~15.0k)

水位 (TP+m)

九頭竜川 (15.0k~31.2k)

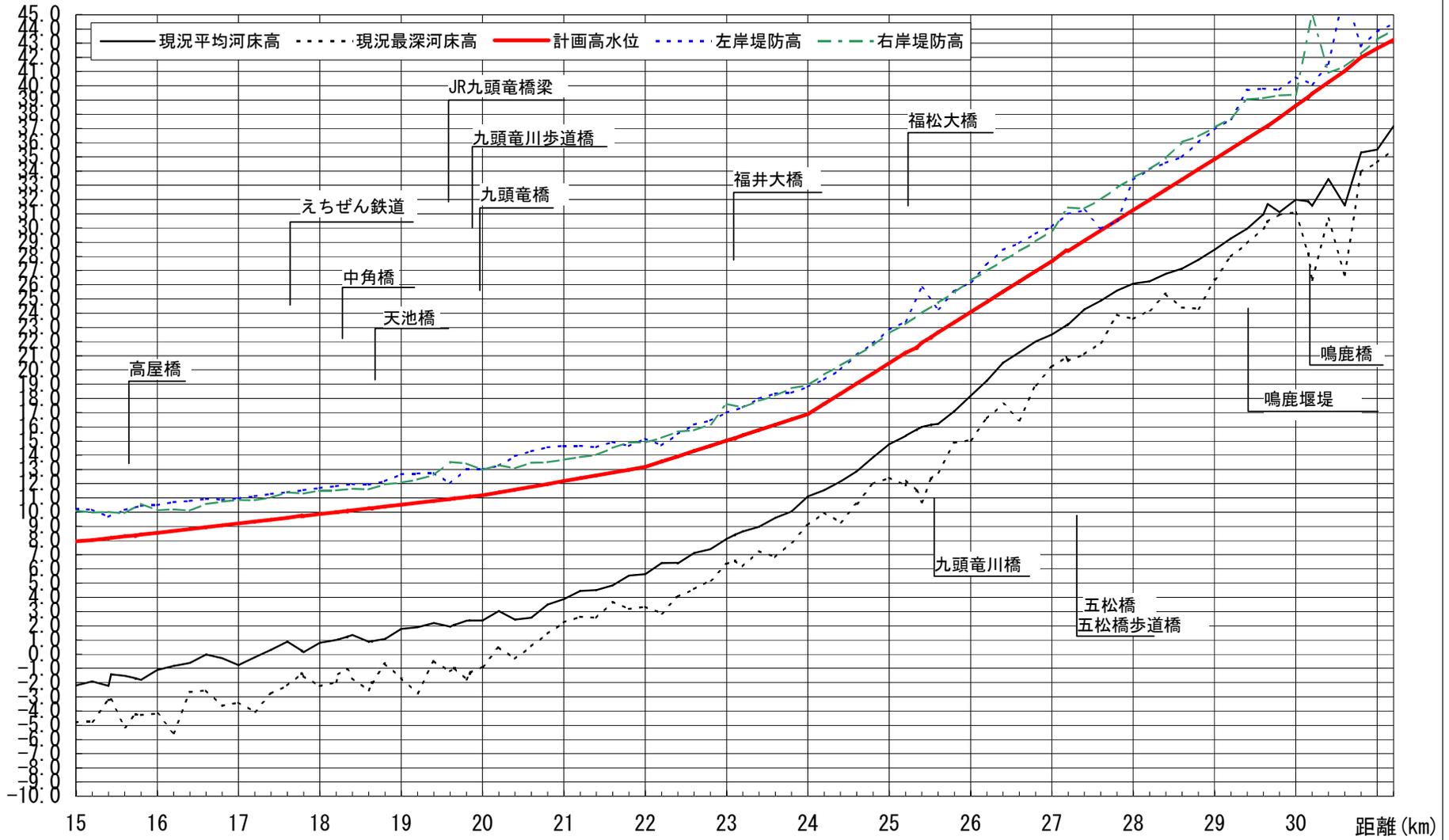


図 8-2 九頭竜川の縦断形 (15.0k~31.2k)

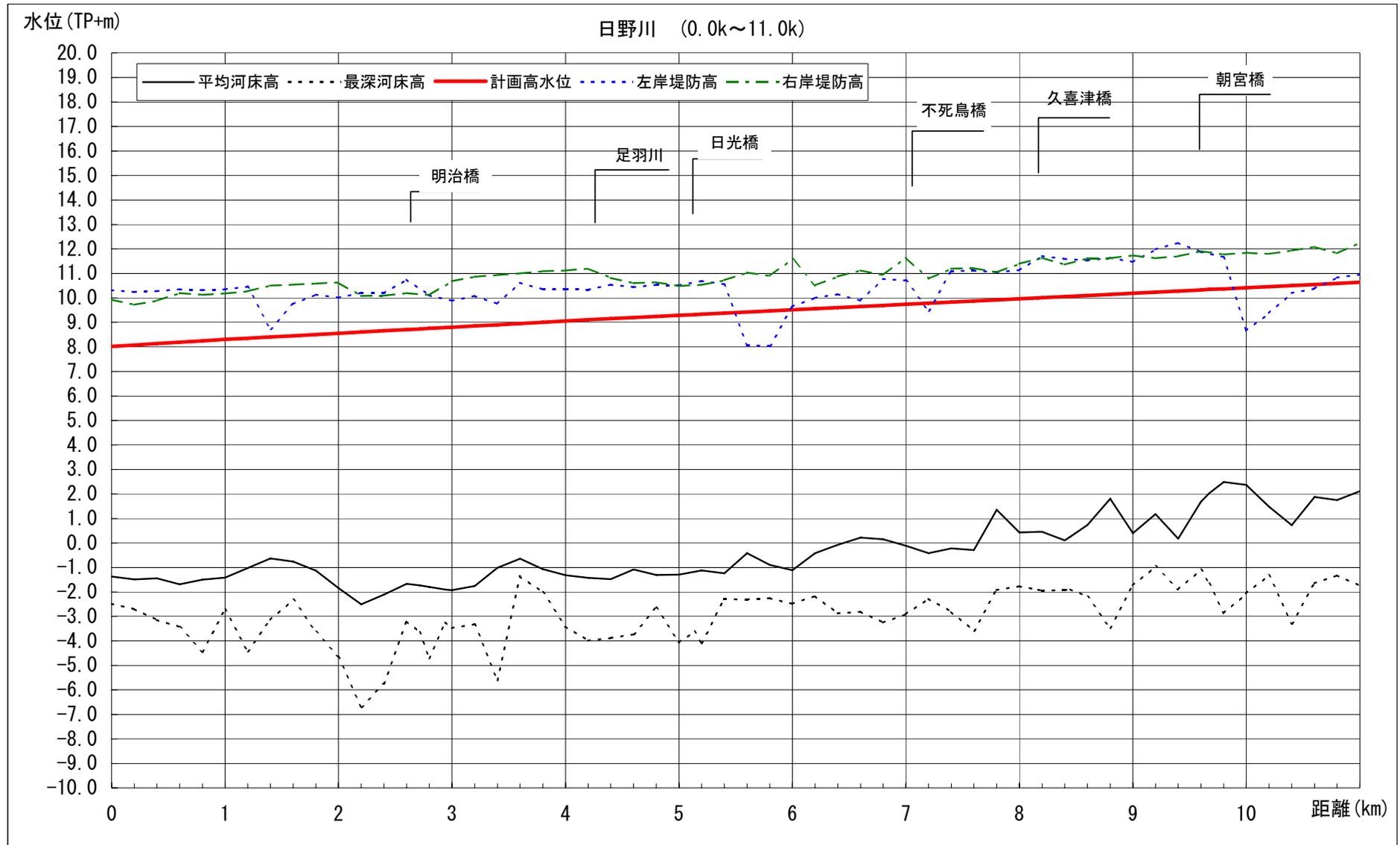


図 8-3 日野川の縦断図

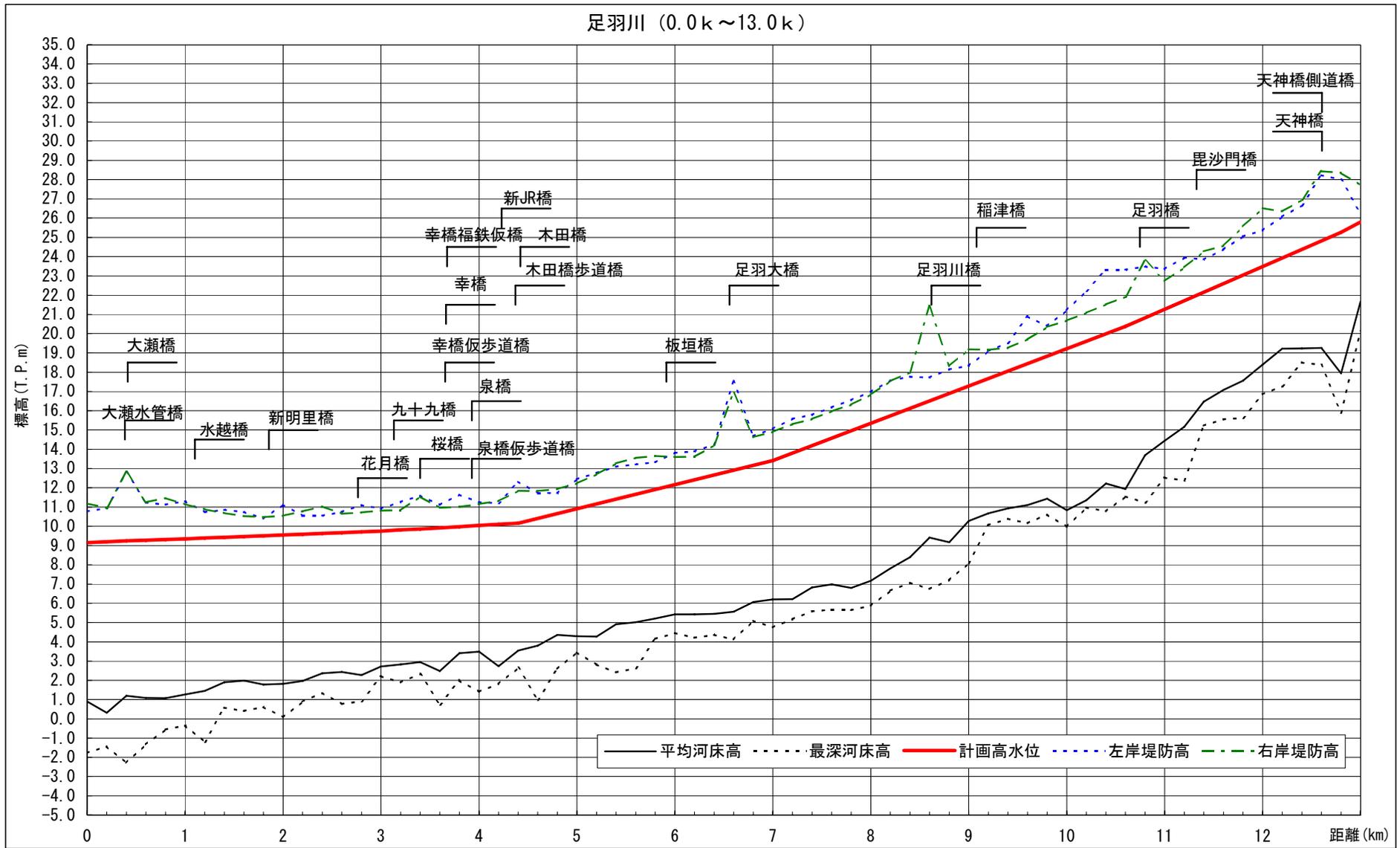


図 8-4 足羽川 の縦断面図

(1) ダム上流域（九頭竜ダム、真名川ダム）

九頭竜ダム上流域では、本川は福井県と岐阜県の県境油坂峠から西流し、途中から北西方向に転じて大野市を流れる九頭竜川本流、および支川によって形成された狭長な河谷が樹枝状に山地を刻んでいる。九頭竜ダム管理区間は、河床勾配約 1/100 以上、川幅約 200m～700m、河床材料は砂・礫で構成され、溪流区間でセグメント M に属する。

真名川は福井県と岐阜県の県境越美山地に源を発し、およそ北流して大野盆地にいたり、九頭竜川に合流する。真名川ダム管理区間は、河床勾配約 1/100 以上、川幅約 150m～250m、河床材料は砂・礫で構成され、溪流区間でセグメント M に属する。



図 8-5 九頭竜ダム

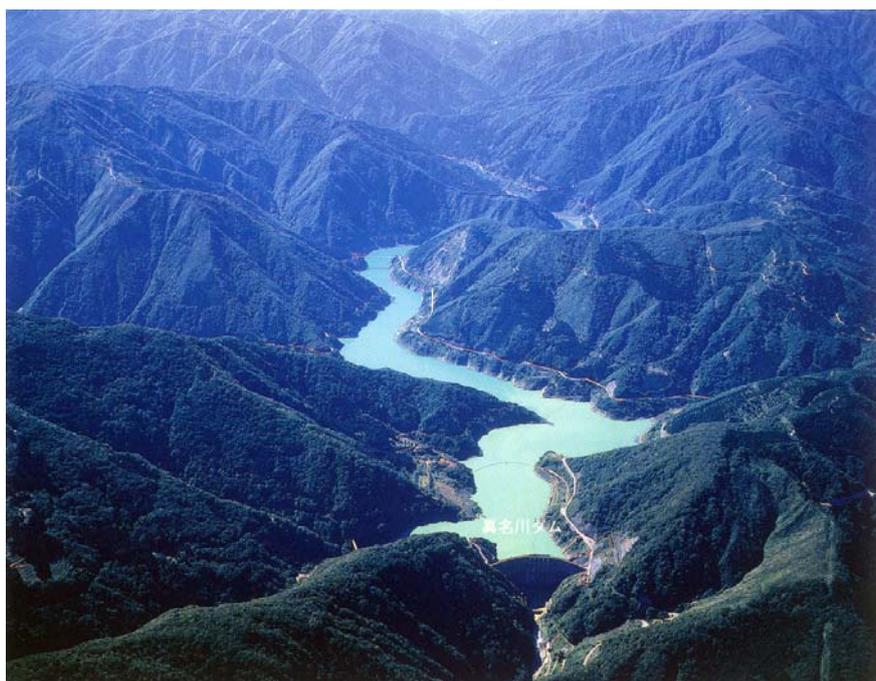


図 8-6 真名川ダム

(2) 九頭竜川直轄上流区間（鳴鹿大堰湛水区間）

直轄管理区間に入って鳴鹿大堰に至る上流区間は、掘り込み河道となっており、川幅は約 100～300mである。堰により常時湛水しており、河床勾配は 1/290 程度、代表粒径は 73mm 程度であり、セグメント 1 に属する区間である。



図 8-7 鳴鹿大堰付近

(3) 九頭竜川直轄中流区間（鳴鹿大堰～中角橋）

鳴鹿大堰を経て、中角橋に至る中流区間には、九頭竜川橋（北陸自動車道）、福井大橋（国道8号）、JR 九頭竜橋（JR 北陸本線）等の重要交通路が多数存在している。堤内地では水田、住宅地が多くみられ、築堤はほぼ完了している。川幅は約 250～600mあり、濬筋の蛇行に伴い瀬淵が連続し、よどみやたまり場の出現頻度が高い。河床勾配は約 1/1,000～約 1/290、代表粒径は 0.46～73mm 程度、セグメントは 2-2 および 2-1 に属し、河床には砂礫が多く、砂礫河原が形成されている。



図 8-8 五領川合流点付近



図 8-9 JR 九頭竜橋付近

(4) 九頭竜川直轄下流区間（中角橋～河口）

中角橋より、日野川合流点、竹田川合流点を経て、河口に至る下流区間では、ほぼ全区間が感潮区間となっている。堤内地は水田、住宅地が多くみられ、築堤はほぼ完了している。川幅は約250～600mあり、河床勾配は約1/6,700～1/1,000、代表粒径は0.25～0.46mm程度、河床材料はシルト、粘土等である。セグメントは3もしくは2-2に属し、開放水面が広がり、緩やかな安定した流れが形成されている。



図 8-10 布施田橋付近



図 8-11 河口付近

(5) 日野川(直轄区間)

日野川では、九頭竜川との合流点より直轄区間上流端まで、ほぼ全区間が感潮区間となっている。堤内地は水田、住宅地が多くみられ、一部区間で引堤に伴う築堤を実施している。川幅は約150~400mあり、河床勾配は約1/5,300~1/2,000、代表粒径は0.39~6.89mm程度、河床材料はシルト粘土質である。セグメント2-2に属し、緩やかな安定した流れが形成されている。



図 8-12 九頭竜川合流点付近



図 8-13 足羽川合流点付近